

## 漢字の宿題

小学生の頃、担任の先生は漢字練習が好きで、漢字200字を書く宿題が毎日のように出ていた。しばらくはまじめに取り組んでいたが、先生が点検した様子はなく、丸もついていない。そうなれば、小学生が思いつくことはひとつだけ。日付を変える！！。毎日ノートをめくって日付を書き換えることが漢字200字の宿題になった。しめしめと思っていたが、半月ほどしてなぜか先生にバレてこっぴどく叱られた。

私の担任の先生は何をねらって漢字練習をさせていたのだろうか。漢字をかけるようにしたいと思ってはいたのだけれど、毎日ある程度の時間、家庭で机に向かう習慣をつけさせたいという意図の方が強かったように思える。しかし、宿題を強いられる子どもにしてみれば、見てももらえない漢字練習を毎日のように続けさせられるのは苦痛でしかない。日付を書き換えていた横着な子どもが不足を言える立場にはないが、指導者の指導意図のない宿題は今も子どもたちは苦痛だろう。

全国学力調査の結果がよい県の家庭学習の時間は充実していて、残念ながら岡山県の子どもたちの家庭学習の時間はそれらの県よりも短い。家庭で学習する習慣づけることは大切だけれども、ただ課題を増やし、してこなかった子どもを強くしかっても、習慣となるような効果は期待薄だと思う。①今日習ったことを使ってする。②今日習ったことの発展課題をする。③次の時間の内容を予習する。④次の単元の学習に備えて前学年の内容を復習する。⑤学期末のテストに備えて一学期に習った漢字や計算の練習をする。など、指導者の指導意図や願い、授業とのリンクが児童の学習意欲を高め、学習習慣が身につくのだと思う。

わたしの母校では、国語賞テスト、算数賞テストという漢字と計算のテストが毎学期あった。担任とはちがう先生が問題を作成し、学級で一名が国語賞、算数賞、二～三名は奨励賞、前学期よりも目立って結果が良い子には努力賞が与えられた。副賞のノートや鉛筆も魅力で、学期末が近付くと皆が熱心に取り組んでいた。

この取り組みのすべてがよいとはいえないが、200字練習をさぼっていた自分にとって、今何とか当用漢字が書けるのはこの取り組みのおかげかもしれない。

宿題は与え方の工夫次第で、励みにもなりやる気にもつながると思う。

